

初めての植物観察覚書・冬編 R.2 年12月6日開催

夏編以来の観察会です。新型コロナウイルスもいっこうに収まらず、不安を抱えたままでの観察会となりました。

さて、この日は快晴。比較的暖かく快適な観察会となりました。初めてご参加の方もやや多かったので、丁寧な解説を心がけました。まず最初は、やっぱりクスノキの観察。これをやらないと勢いがつかない感じになってきました。中級クラスの小川（彰）さんから、大変丁寧なわかりやすい解説をいただきました。脈が三行脈であることやダニ部屋が有ること等覚えていますか？続いて植え込みの中にアカネ科のヤエムグラを見付けました。田中さんから葉が輪生しているようだが、実際はほとんどが托葉の変化したものだと言われました。続いて小川（英）さんにイヌタデの解説をしていただきました。托葉が筒状になり托葉鞘となっていること等観察しましたね。傍らではミカンソウ科のコミカンソウがたくさん実をつけていたのでこれを観察しました。近くのケヤキの木では、樹皮についての観察をして、果実が風で飛ばされる話をしました。階段の途中では、クチナシが有りましたので、この植物でも托葉鞘の観察をしました。葉の付き方は対生でした。すぐそばには、コセンダングサが生えていたので、キク科の頭状花序の観察をしました。意外にも合弁花なのですね。階段を上りきった辺りでは、サザンカが咲いていたので、長岡さんをお願いしてツバキとの違いをお話いただきました。葉の裏の主脈上に毛があるのでしたね。



クスノキの葉



ヤエムグラ



イヌタデ



コミカンソウ



ケヤキ



クチナシ



コセンダングサ



サザンカ（八重）

芝生広場の周りでは、河野さんにアラカシとコナラの比較をしていただきました。同じコナラ属 *Quercus* なのに常緑と落葉が有るのですから不思議です。反対側にあったソメイヨシノを使って皮目の説明をしてから、イヌシデの葉を見ました。脈が平行に走っているのが特徴でした。また鋸歯というものについても、じっくり観察していただきました。隣ではスタジイ（コジイかも？）の葉を観察しました。ムクノキ（アサ科）の枝には実がついていました。徳島市内の方は多くがこの実を食べたことがあるとのこととで試食しました。少し干からびたものでは干し柿のような味。「子供の頃は糠に漬けたと思うが・・・？」とのご意見があり、「それは、甘いのは上級生が取ってしまうから小さな子は青いのを取って糠に漬けたんだと思う」との情報をいただきました。興味深いお話ですね。最後にタブノキの葉を観察して噴水に戻りました。



アラカシ



コナラ



ソメイヨシノ



イヌシデ



スタジイ



ムクノキ



タブノキ



カンツバキ

写真撮影：豊谷千幸さん

この覚書では、初めての植物観察で見られた植物について、備忘録的に記録に止めています。プリント版は、博物館3階にて茨木までお申し出いただければお渡しできます。また、同じものをホームページ <http://museum.tokushima-ed.jp/ibaraki/index.html> 上からダウンロードいただけます。なお、この行事では、中級クラス植物観察会他の皆さんに解説その他ご協力を頂いています。ここに記してお礼申し上げます。

お問い合わせは以下まで。

〒770-8070 徳島県徳島市八万町徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 Fax 088-668-7197

茨木靖（いばらぎやすし） ibaragi_yasushi_1@bunmori.tokushima.jp

徳島県立博物館では、学芸員は交代勤務ですので年末年始以外は、誰かが居ります。植物については私が不在の場合、小川自然課長がいれば、ご質問にお答えできます。お気軽に博物館にご連絡ください。メールも大歓迎です。